

E・グラナドス、F・マーシャル、A・ラローチャ、熊本マリの音楽の系譜

大阪芸術大学 演奏学科 教授 熊本 マリ

(共同研究者:大阪芸術大学短期大学部 通信教育部保育学科 特任講師 紺谷 志野)

本研究の目的は、筆者と生前深い交流があったスペイン人ピアニストのラローチャ(Larrocha, Alicia de 1923 - 2009)を中心に、スペイン音楽を代表する作曲家グラナドス(Granados, Enrique 1867 - 1916)、マーシャル(Marshall, Frank 1883 - 1959)との関わりやピアノ作品について明らかにすることである。

ラローチャは、2023(令和5)年に生誕100年を迎えた世界的な女流ピアニストであり、マーシャルの高弟であった。幼少期よりその才能を認められ、国際的な演奏活動を行う中で、アルベニス(Albéniz, Isaac 1860 - 1909)やグラナドス、ファリャ(de Falla, Manuel 1876 - 1946)、モンポウ(Mompou, Frederico 1893 - 1987)といったスペイン人作曲家のピアノ作品を多く演奏し、スペイン音楽作品の魅力を広めることに貢献した。

筆者は幼少期にスペインに移住し、現地で音楽教育を受け、スペイン王立マドリッド音楽院で学んだ。幼少期にはラローチャの演奏を何度も聴く機会に恵まれ、本人やその家族とも交流を深めてきた。筆者の代表的な活動の一つとして、モンポウ(Mompou, Frederico 1893 - 1987)のピアノ作品の演奏や録音、書籍の翻訳を行っているが、モンポウ作品に関わるきっかけを筆者に与えたのもラローチャであった。

本論の共同研究者の紺谷志野は、大阪芸術大学、同大学院の出身であり、筆者の指導のもとで2012年にスペイン音楽に関する博士論文を執筆した。昨年度の共同研究においては、現代スペイン音楽の作曲家ホアキン・ニン＝クルメル(Nin-Culmell, Joaquín 1908 - 2004)の作品について、父親のホアキン・ニン(Nin, Joaquín 1879 - 1949)やその家族、音楽家との関わりを通してニン＝クルメルの作品についての考察を行った。ニン＝クルメルは、モンポウやラローチャと良き友人関係であり、本研究に昨年度の研究成果を生かしたいと考えている。

2024(令和6)年2月現在においては、本研究に関する書籍、楽譜、CD、DVD等の資料を蒐集し、共同研究者と共に研究内容の確認を行っている。

筆者は、この研究過程の2023年12月に、NHKのラジオ番組「マエストロたちの変奏曲『名盤を通して知るマエストロたち』」のラローチャ特集に出演し、4夜

連続の放送においてラローチャやスペイン音楽について語る機会を得た。ラローチャが亡くなって15年が経過した現在、生前の活躍が急速に忘れられている傾向にあり、NHKでこのような特集が組まれたことは世界的にも稀なことであった。共演の音楽学者やNHKならではの資料や音源など、筆者自身も新たに知る情報もあり、本研究にそれらを生かしたいと考えている。

また、筆者はラローチャの娘のアリシア・トーラ(Torra, Alicia)と現在も交流があり、2021年には出版社の企画でラローチャについての対談も行っているⁱⁱ。ラローチャに関する貴重で確実な情報について提供を受けられる状況であり、本研究の成果のみならず、日本における数少ないスペイン音楽の研究に貢献したいと考えている。

ⁱ アリシア・デ・ラローチャ変奏曲～名盤を通して知る大芸術家～
<https://www.nhk.jp/p/rs/GN2LPRNPXR/episode/re/X4XJW36MVW/>

ⁱⁱ 熊本マリ×アリシア・トーラ【Mari's café Mari Kumamoto & Alicia Torra】
<https://www.youtube.com/watch?v=UjtRfTvPVaM>